

I 学校の教育目標

互いの成長を認め合いながら自ら道を拓く生徒の育成

II 育成を目指す資質・能力

互いのよさを生かして協働する力

III 児童・生徒の課題

	学力状況について	学習状況について
児童・生徒の課題	2年生については、市学力調査で全教科で全国正答率を4～10ポイント上回っていた。3年生については、理科と英語で全国正答率を上回っていた。また、国語、理科、英語では応用において、全国値を上回っていた。目標値を下回った分野や問題に対し、教科担当で授業や家庭学習で対策をおこなっている。	授業態度は全体的に落ち着いており、指示されたことについてはきちんと取り組むことができるが、全教科で積極的に発表できているとは言えない。また、話し合い活動で意見交換をし、班の考えを発表することはできるが、さらに考えを深め合うことについてはまだ十分とは言えない。日頃の家庭学習においては宿題が中心の生徒が大半である。

IV 学校評価4点セットの学力に関する達成指標

・学力調査における正答率50%以上を75%以上 ※定期テストも同様
 ・「自分に合ったやり方を見つけ、家庭学習に取り組むことができる」の「そう思う」の回答を60%以上

V 授業改善の取組(「授業改善の5点セット」目標達成に向けた組織的な授業改善)

①授業改善テーマ	自立した学習者の育成
②授業改善の重点	～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実～

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
1学期	個別最適な学びで、自分に合った学び方を見つけ、協働的な学習で互いに協力しながら、学びを深めさせる場の設定	①毎時間、基礎・基本の定着確認を取り入れる ②単元に1回以上思考ツール等を活用した交流活動や互いの考えを説明しあう場を設定する ③他者の考えを聞いて、参考に自分の考えをさらに深める協働的な学びあいを取り入れる	①「自分に合ったやり方を見つけ、家庭学習に取り組むことができる」という問いに「そう思う」と回答する生徒を70%以上に ②単元に1回以上思考ツール等を活用した交流活動や表現活動を取り入れる ③「班員の考えを聞いて、自分の考えが深まった」という問いに「そう思う」と回答する生徒を60%以上	①「自分に合ったやり方を見つけ、家庭学習に取り組むことができる」という問いに「そう思う」と回答する生徒45% ②単元に1回以上思考ツール等を活用した交流活動や表現活動を取り入れた教員は100% ③「班員の考えを聞いて、自分の考えが深まった」という問いに「そう思う」と回答する生徒を75%

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
2学期	個別最適な学びで、自分に合った学び方を見つけ、協働的な学習で互いに協力しながら、学びを深めさせる場の設定	①毎時間5分間キュビナ問題、キュビナテスト、家庭学習の運動 ②単元に1回以上思考ツール等を活用した交流活動や互いの考えを説明しあう場を設定する ③他者の考えを聞いて、参考に自分の考えをさらに深める協働的な学びあいを取り入れる	①「自分に合ったやり方を見つけ、家庭学習に取り組むことができる」という問いに「そう思う」と回答する生徒を60%以上に ②単元に1回以上思考ツール等を活用した交流活動や表現活動を取り入れる ③「班員の考えを聞いて、自分の考えが深まった」という問いに「そう思う」と回答する生徒を80%以上	

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
3学期				

VI 学習定着状況の把握とフォローの取組 および

個に応じた学習の取組(補充学習・習熟度別指導等) ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
1学期	・5教科の授業でキュビナタイム ・各教科のキュビナタイムの定着確認テストを毎週火・木曜日に実施	・キュビナのワークブック機能を活用した毎時間5分間の基礎・基本問題に取り組ませる。 ・キュビナの定着確認テストを実施する。	◎
2学期	・5教科の授業でキュビナタイム、5分間復習ドリルの活用 ・各教科のキュビナタイムの定着確認テストを毎週火・木曜日に実施	・キュビナのワークブック機能を活用した毎時間5分間の基礎・基本問題に取り組ませる。5分間復習ドリルで弱分野に取り組ませる ・キュビナの定着確認テストを実施する。	
3学期			

◎=達成(10割以上)、○=概ね達成(8割以上)、△=やや未達成(6割以上)、×=未達成(6割未満)

VII 学校・家庭・地域の協働の取組

※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
家庭	家庭学習習慣の定着(キュビナ学習・自分に合ったやり方で計画を立てる) (1年70分、2年80分、3年90分)	・生活ノートに毎日の家庭学習時間を記入させ、目標時間を達成できるようアドバイスや声かけをする。	1学期 ◎ 2学期 3学期
地域	三花・小野公民館と連携を図り、地域の老人会との合同の活動を行う。地域のゲストティーチャーに書写、作品制作、防災などの指導をしてもらう。	総合的な学習の時間を中心に地域の方々との交流を学期に1回以上行う。	

◎=達成(10割以上)、○=概ね達成(8割以上)、△=やや未達成(6割以上)、×=未達成(6割未満)

VIII 令和6年度日田市アクションプランの達成指標・取組指標

1 学校評価4点セットの達成状況

令和6年度学校評価の4点セット達成指標(学力)の評価	1学期	2学期	3学期
	3		

※学期末の評価を1～4で入力(達成指標が複数ある場合は、平均を四捨五入した数値)
 ※プルダウンで数値を選択

2 取組指標

① 「新大分スタンダード」と自校の【③取組内容】に基づいて、単元計画と本時案(略案)を作成して、授業を担当する全教員が11月までに公開授業(互見授業含む)を実施する。	授業担当者数 7人	授業を公開した教員の割合	
		7月末時点	11月末時点
		43%	%

※割合(%)は四捨五入して整数表示

② 管理職または教務主任等は、授業観察シートをもとに、経験の浅い教員(採用10年以内)1人に対し学期に3回以上授業観察を行う。	1学期	2学期	3学期
	○		

※プルダウンで○、×を選択

③ 計画的に互見授業を実施し、全教員が学期に1回以上自校の教員の授業を参観する(校内研を除く)。	1学期	2学期	3学期
	○		

※プルダウンで○、×を選択